

高専通信

NATIONAL INSTITUTE OF TECHNOLOGY(KOSEN), TOMAKOMAI COLLEGE



新入生へ贈る言葉

各副校長ご挨拶

新留学生紹介

卒業生・修了生へ贈る言葉

令和5年度進路状況

TOPICS

2024年6月発行

苫小牧工業高等専門学校

〒059-1275 苫小牧市字錦岡443 苫小牧工業高等専門学校 総務課総務係
[URL] <https://www.tomakomai-ct.ac.jp> [MAIL] pub_info@tomakomai-ct.ac.jp

新入生へ贈る言葉

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。

これまで暖かく支えてくださったご家族の皆様方、本日は誠にありがとうございます。

ここに、令和六年度 苫小牧工業高等専門学校 入学式を挙行し、新入生を迎えられること、教職員一同、心よりうれしく思います。

今年度は、創造工学科第一学年入学生百九十九名、第三学年入学外国人留学生二名、創造工学専攻第一学年入学生二十七名、合計二百二十八名を迎えることができました。本日の晴れの日を迎えられたこと、本当におめでとうございます。

苫小牧工業高等専門学校は、昭和三十九年、一九六四年四月に設置され、今年度は創立六十周年の記念の年に当たります。現在、全国には五十一の国立高専があり、約五万人の学生が最先端工学を熱心に学んでいます。高専は五年間で大学卒業に匹敵する高いレベルの専門教育を行う学校です。さらに二年間の専攻科では、一層高度な専門教育と先端研究に取り組み、大学卒業と同じく学士の学位を授与されます。

創造工学科に入学者の皆さんは、一日も早く専門教育を受けたいと心待ちにしていることでしょう。一年生の期間には、授業や学校行事を通じて様々な専門分野の特徴を知ることができ、教員や先輩のアドバイスをしっかりと耳を傾け、自分に適した専門分野を見つけてください。道内では半導体産業の進出によって関連分野の人材育成が注目されていますが、近年はいずれの産業分野においてもビッグデータの分析ができる技術者が求められています。本校は全国高専に先駆けて文部科学省の数理・データサイエンス・AI教育プログラムの認定を受

け、DX人材の育成に力を入れています。また今年度からはグローバル人材育成事業を開始し、英語を用いた専門教育にも取り組む予定です。高専年で学ぶ高度な専門科目を理解するためには、幅広い基礎科目の深い知識が必要となります。特に一年生で学ぶ基礎科目の十分な理解が大事ですので、予習や復習を行う学習習慣をしっかりと身に付けてください。

これからの高専での日々は、決してすべてが順調ではなく、難しい勉強に苦勞を、クラブ活動の厳しさに耐え、友人関係に悩むこともあるかと思いますが、そのすべてが立派な技術者として社会で活躍するための準備であり経験となります。分からないことや心配なことがあれば、一人で悩まずに担任または他の教職員に遠慮なく相談してください。本校には、皆さんを支援する様々な取組がありますので、積極的に活用してください。そして、高専における多様な学びと活動を通じて、自分自身の社会力の向上に励んでください。

苫小牧高専の教育理念には、「豊かな人間性および自主自律の精神を育成し、技術者に必要な知・徳・体のバランスのとれた成長を促し、社会の発展のために活躍できる人材を育てる。」とあります。教職員一同、皆さんの学びをしっかりとサポートしますが、皆さん自身の学び続ける姿勢が一番大事です。

皆さんが楽しく充実した学生生活を送り、最後には全員が揃って卒業・修了の日を迎えられることを祈念して、式辞といたします。

令和六年四月九日

苫小牧工業高等専門学校長 小林幸徳

在校生からのメッセージ

1年生の皆さんへ、ご入学おめでとうございます。

皆さんには叶えたい夢がありますか？ 私にはあります。高専に入学した皆さんの中には、自分の将来の夢が明確な人もいれば、まだ模索中の人もいますでしょう。最初の1年間は、自分の専攻を決めるとても大事な期間です。だからこそ、じっくりと将来の夢について考えてほしいです。

高専での5年間はとても短いものです。卒業する頃には二十歳になり、そこからあつという間に時が過ぎていくことでしょう。“どうせ今の自分には無理だ”とそんなネガティブな考えは捨てて、今自分ができることに全力を注いでほしいです。そして、新しい挑戦にも積極的に取り組んでください。自分の限界を超えることで、成長の機会が広がります。

そして、どうか夢を夢のまま終わらせないでください。自分の目指す未来を信じて勇気と努力をもって前へ進んでください。その過程における困難はきっとあなたにとって貴重な経験にもなるはずです。

為せば成る!! 夢は見るものではなく叶えるためにあるのだから!!

5年1組 佐々木翔大



新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。すでに将来の目標を持って高専へ来られた方もいれば、これから決めるという方もいると思います。ですが、不安にならずにこの1年間で進みたい系を良く吟味してください。

私から高専生活を送るうえで2つのアドバイスがあります。一つ目、高専は中学までよりも主体性が求められ、自分で考え選択しなければならぬ場面が増えます。5年間は長いように思えますが、あつという間です。楽しいことも沢山ありますが、勉強には手を抜かないこと。常に目標を持って自己を律し、メリハリのついた生活を送ってください。二つ目、高専はとても自由で、時間もたっぷりあります。特に、春・夏休みはとても長く、何もすることが無いと暇です。学校側が海外研修やコンテスト、各種交流会など様々な活動の案内を出しているの、その情報を良くチェックし、興味のあることがあれば積極的に挑戦することをお勧めします。

5年2組 大沢穂香



最初は勉強や、寮生活、友達・先輩関係など不安な事が多いかもしれませんが。ですが、毎日少しずつ勉強と日常生活を積み重ねていけば絶対に大丈夫です。同級生や先輩・先生方も優しく、必ず皆さんの力になってくれると思うので安心してください。

応用化学・生物系は、実験・レポートや勉強がしんどいですが?とよく聞かれます。慣れない間は大変ですが、実験後にレポートを書く事で理解が深まり文章能力も向上する為、自分の将来に役立つと感じています。また、同級生の皆や先生が協力してくれる為、実験や勉強も私は凄く楽しいです。4年生からは食品・バイオと機能材料、フロンティアの3つのコースにわかれ、より専門的な知識を身に付ける事が出来ます。化学好きな方には凄くおすすめです。

5年間は長いように見えますが、実はあつという間に過ぎてしまいます。後悔の無いよう、勉強に部活、挑戦したい事に全力で取り組んでください!!

5年3組 本間陽菜



新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます!高専での新しい生活に慣れてきましたか?

系選択は、今後4年間の勉強内容、その後の進路に大きく影響します。最初の1年間は、自分が何に興味があるのか、将来何になりたいのかを明確にし、系選択に臨むことをおすすめします。何か分からないことがあれば、是非、私達先輩に聞きに来てください。また、高専には中学の頃はいなかった面白い人、今までは知らなかった面白いことがたくさんあります。新しいことに是非、積極的に挑戦していただきたいです!

電気電子系では、最近話題になっている半導体、ソーラーパネルを用いた太陽光発電などについて、他の系と比べより専門的に学ぶことができます。また、電気をを用いた目に見えない現象を数学・物理を用いて理論的に、実験・工作を用いて直感的に学ぶことができます。そのため数学や物理が好きな方、電気工作が好きな方に非常におすすめです! 高専での5年間は案外あつという間に終わってしまいます。皆さんの長いようで短い高専ライフ、全力で楽しんでください!

5年4組 中野敏清



新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。やつと高専での生活に慣れてきた頃でしょうか。苦小牧高専では、普通の高校とは違って、2年生で5つの専門分野の系に分かれて、様々なことを学びます。1年生は、自分の学びたい専門分野を選ぶ際の重要な期間です。そのため、自分が将来どんな職業に就きたいのか、どのようなことに興味があるのか、創造工学の授業や、系体験、高専祭などを通して、自分に合った専門系を考えてみてください。

情報科学・工学系では、プログラミングをはじめ、コンピュータやネットワークの仕組みなど、幅広い技術を学びます。今世の中を支えているIT技術を学びたい人はぜひ情報科学・工学系を選んでほしいです。

高専の5年間は長いようであつという間に過ぎます。勉強も大事ですが、まずは、楽しく学校生活を過ごすことが大事だと思います。部活動や、学校行事での友達、先輩、後輩、先生との交流を大切にしてください。皆さんが充実した高専生活を送れることを心から祈っています。

5年5組 小林広人



第1学年担任からのメッセージ

新しい春、新たな出発点、そして新しい高専生活の始まりに、心からの歓迎を申し上げます。この新しいスタートが、皆さんにとって新しい発見や創造の扉を開く機会となることを願っています。

高専で学ぶ科学技術は、私たちの未来を創り出す重要な鍵です。ここで学ぶ理論や実験を通じて、科学技術の奥深さと魅力を深く体験してください。持っている好奇心を大切に、疑問に思うことを積極的に追求することで、知識と技術を深め、より豊かな学びを実現しましょう。自身の可能性を信じ、新たな挑戦に恐れずに立ち向かい、自らの道を切り拓いてください。

また、高専生活は学業のみならず、人として成長できる貴重な時期です。課外活動や高専祭など多彩な活動を通じて、一層充実した高専生活を送ることができると確信しています。お互いを支え合い、友情を深め、尊重し合うことで、生涯の仲間を得ることができるでしょう。

この4月、皆さんを迎える第1学年の担任は以下の教員で構成されています。

高橋 労太 (1年1組)
野村 雄紀 (1年2組)
佐藤 奈々恵 (1年3組)
有馬 隆司 (1年4組)
河野 友哉 (1年5組)

新しい友人や先生方と共に、協力しながら新しい世界への一歩を踏み出しましょう。

第1学年担任代表
高橋 労太



昨年度に引き続き今年度も学生主事を務めさせていただくことになりました佐藤森（応用化学・生物系）です。学生主事補の高澤幸治先生（機械系）、松尾優子先生（都市・環境系）、多田光宏先生（総合人文科学系）とともに、課外活動、各種行事の企画・運営、学生会行事の補助などの業務を行い、本校の学生が充実した高専生活が送れるような学校環境づくりを目指していきます。また、学生の窓口となる学生課、保健室、相談室などの部署と協力・連携しながら、皆さんをサポートしていきます。



副校長
(学生主事)
佐藤 森

昨年度は、コロナ禍以降、久しぶりに制限がない状況で各行事を行いました。その中で学生の皆さんの工夫で新たな形での行事のありかたも見えてきました。本年度も、課外活動や多くの学校行事が行われます。さらに8月から9月にかけて全国高等専門学校体育大会の全国大会が北海道内で開催されます。学生の皆さんと協力し、様々なアイデアを出しながら充実した学校生活を送れるようにしていきたいと考えています。学生の皆さんならびに保護者の皆さんのたくさんのご理解とご協力が必要となります。どうぞよろしくお願い申し上げます。

GREETINGS

各副校長 ご挨拶

昨年度に引き続き寮務主事を務めます機械系の池田慎一です。寮務主事補の鈴木修平先生（総合人文科学系）、多賀健先生（総合自然科学系）、藤田彩華先生（応用科学・生物系）、酒井佑植先生（都市・環境系）とともに、寮生活全般の指導を行ってまいります。今年度は新入寮生69名（1年生男子50名、1年生女子16名、3年生女子留学生2名、専攻科1年留学生1名）を迎え、スタートすることができました。多くの新入寮生にとっては初めて親元から離れ、さらに慣れない集団生活に緊張や不安のなか過ごしているものと思われます。教職員一同、規則正しい寮生活を送れるようサポートを心がけておりますが、ご不明な点等がございましたら、ご連絡いただければと思います。



副校長
(寮務主事)
池田 慎一

本校の学生寮は集団生活を通して多くの仲間とともに様々な経験を得ることのできる重要な場であると考えております。幸いにもこれまで猛威を振っていた新型コロナウイルス感染症は影を潜め、今年度予定している学生寮での様々な行事への影響はほとんどないものと考えております。しかしながら、各種感染症の影響が皆無となった訳ではありません。引き続き、寮生、保護者の皆様をはじめ関係各位におかれましては、ご理解とご協力をお願いいたします。

今年度も副校長（総務主事）・創造工学科長を務めます平野博人（応用化学・生物系）です。総務主事としては、点検評価、広報、施設・防災、国際化の推進及び国際交流、将来計画と多岐にわたる事項について担当いたします。総務主事補の大西孝臣教授（情報科学・工学系）、石川愛弓准教授（総合人文科学系）、上場一慶助教（総合自然科学系）に加え、フェルナンド特命准教授（応用化学・生物系）とともに円滑な業務遂行に努めます。



副校長
(総務主事)
平野博人

今年度から全国の高専でグローバルエンジニア育成事業が実施されます。本校でも「国際コミュニケーション力の涵養と多文化共生理解を目指すグローバルエンジニア育成」を目指し、ますます国際交流事業を活性化させていきます。昨年に引き続き、タイ・カセサート大学、ニュージーランドEIT並びに香港THEiなどへの学生派遣研修を推進します。学生、教職員共に国際感覚を磨き、全学的に国際交流活動に取り組みます。

種々の教育システムの点検評価、防災対策や施設設備改善の計画立案など、学生、教職員が安心して勉学や仕事に励むことができる環境整備にも努め、今後も創造性・探究心豊かな人材を輩出できるよう、教職員一同全力で支援してまいります。

保護者、同窓生、地域の皆様におかれましては、今後とも本校の教育改革並びに教育活動へのご理解、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

昨年度に引き続き、副校長（研究主事・専攻科長）を務めます情報科学・工学系の稲川清です。2024年度の専攻科創造工学専攻は、2年生が機械系5名、都市・環境系5名、応用化学・生物系8名、情報エレクトロニクス系14名の計32名、1年生が機械系9名、都市・環境系3名、応用化学・生物系4名、情報エレクトロニクス系11名の計27名となります。1年生には、モンゴル国からの留学生1名が含まれます。専攻科に在籍する2年間に、一般科目や専門科目などの講義の他に、学外研修やマネジメント演習／アントレプレナーシップ演習（共同教育）といった実務体験ができる演習系科目や、2年かけて研究成果をまとめる特別研究など、地域連携や創造（ものづくり）を体験しながら、リーダーシップやコミュニケーション能力を養成するプログラムが用意されています。また、専攻科学生は本科4、5年に加えて、これら2年間の教育課程を修了することで、4年生大学卒業と同等の学士の資格を取得することができます。



副校長
(研究主事・専攻科長)
稲川 清

副専攻科長の小藪栄太郎准教授（機械系）、甲野裕之教授（応用化学・生物系）ならびに全教職員の協力のもと、専攻科学生のさらなる学びの充実、学びの機会の確保に努めます。今後ともご理解・ご協力を賜りますよう、何卒、よろしくお願い申し上げます。

昨年度より引き続き教務主事を務めます松田奏保（総合人文科学系）です。教務主事補の近藤崇教授（都市・環境系）、佐々木幸司准教授（電気電子系）、中村嘉彦准教授（情報科学・工学系）と共に、本校の教育環境がより良いものになるよう尽力して参ります。



副校長
(教務主事)
松田奏保

昨年度は、千歳市への半導体産業の進出に伴い半導体人材への関心が急速に高まっていることを受け、低学年から半導体関連について学べる体制を整えました。また本校では、半導体産業のみならず、様々な分野で必要とされているIoTやAI・データサイエンスの知識や技術を持ち社会課題の解決に貢献できる人材育成に力を入れています。さらに、日本国内に限らず世界で活躍するための国際性や、自ら課題を見つけて分析し解決できる汎用的能力の育成など、社会のニーズに対応した教育改善に積極的に取り組んでいます。

時代の変化とともに高専に求められる役割も変化してきていますが、これまで長年培ってきた高専教育を基礎に置きつつ、学生の未来を見据えながら教育の充実を図る努力を継続して参ります。保護者、地域、同窓生の皆様におかれましては、今後とも本校の教育へのご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

新 任 教 員 ご 挨 拶

本年度から応用化学・生物系の准教授に着任した渡邊智（わたなべさとし）と申します。出身は神奈川県藤沢市です。地元の高校を卒業後、東京理科大学で博士（工）を取得しました。学部4年時と博士課程時に産業技術総合研究所と理化学研究所で研究を行いました。学位取得後は東京理科大学と熊本大学で計14年間、助教として大学教育と研究をしてきました。2019年に東ミシガン大学に留学しました。

専門分野は「コロイドおよび界面科学」です。一般的な化学で扱う原子・分子より大きく、機械工学や生物学で扱うデバイスやウィルスよりは小さいメソ・マイクロスケールの構造に興味があります。研究分野は「ソフトロボティクス」です。既存の「大きく・固く・重い」ロボットや化学プラントを「小さく・柔らかく・軽く」し、昆虫や細胞、ウィルスのようなソフトマイクロロボットの実現を目指しています。

現在のSociety 5.0やSDGsを目指す国際社会の中で「高等学校における理工系の専門教育」と「専攻科や大学院進学」の需要が高まっています。その先駆けとなる高専教育の伝統を引き継ぎ、教職員、学生、保護者、地域の皆さんと一丸となって新しい高専教育と研究の創造に邁進していく所存です。



応用化学・生物系

准教授

渡邊 智

本年度より応用化学・生物系の特命准教授として着任しましたアルテアガ アルテアガ フェルナンドと申します。メキシコ出身です。大学院の修士までは、メキシコのグアナファト州で育ちました。そして、2011年に日本へ来て大阪大学で博士課程（理学）を取得しました。その後、東京にある微生物化学研究所で研究員（ポスドク）として約1年半研究活動を行いました。

2016年6月から2024年3月まで北海道大学のI S P(Integrated Science Program)を担当し、助教として教育・研究・国際交流（インド・中国・カナダ・メキシコ）活動を実施しました。この期間中ではカナダにて講師としてジョイントプログラム（海外ラーニング・サテライト）を実施し、ドイツのカールスルーエ工科大学へ訪問し共同研究も行いました。

私の専門分野は有機合成及びバイオマテリアルです。化合物や触媒の設計、そしてその分子の合成と応用に関する研究分野です。「分子レベルでのデザイナー」の仕事ですね。

苫小牧高専でのさらなる教育・研究・グローバル化の発展に貢献したいと思います。よろしくお願いします。



応用化学・生物系

特命准教授

アルテアガ アルテアガ
フェルナンド

新／留／学／生／紹／介

ハロー！ 苫小牧！！

3年3組
ハジミ



こんにちは。モンゴル出身のフスレンです。モンゴルでモンゴルコース技術力レッジの学生でした。私の名前はモンゴル語で希望という意味なので、日本人の皆さんに覚えやすくして意味通りの「のぞみ」というニックネームを付け、皆さんにノゾミと呼んでいただいています。私は去年の4月に日本に来て、一年間東京の新宿にある日本語学校で日本語の勉強をしてから苫小牧に来ました。大変賑やかなところから来たので、苫小牧は静かで安心できて嬉しいです。苫小牧は気候が私の住んでいた所とよく似ているので懐かしくていい感じです。

今授業が始まって一週間くらいしか経っていませんが、知らないことがよく出てきています。その時は、チューターの子に聞いて教えてもらっています。チューターの子は吉村凛子さんという女の子でとても優しくてちゃんとした子なので本当に助かっています。他にも先生方や学生たち皆さんが全員とても優しく、色々教えてもらっていて大変助かっています。本当に皆さんのおかげで高専の3年間は楽しく過ごすことができそうな気がしています。高専ではたくさんの部活があるので、私はバレー部に入ろうと思っています。全てがこれからなので充実した高専生活を送るために頑張っていきたいと思います。

留学生の苫小牧での生活

3年5組
エーネー



私はモンゴルから来た留学生のエネレルです。今年から、情報科学・工学系3年5組に入ることになりました。ここに来る前に、東京で1年間日本語学校に通っていました。日本に来る前に3ヶ月ぐらい日本語を勉強したので、日本語能力はあまり高くないです。

授業が始まってまだ一週間しか経っていませんが、高専生活によく慣れてきました。クラスのみならず寮生の学生たちにたくさん助けられています。また、モンゴル人の学生も2人いるので思ったより安心で、楽しいです。これから、授業について理解出来なかったことを先生とクラスメートに聞き、勉強をもっと頑張りたいと思います。また、勉強以外に、バスケット部に入りたいと思います。

私は、日本に初めて行きたいと思ったのは、中学校の時ナルトというアニメを見た時からです。この時から、日本の文化や生活スタイルに興味を持つようになりました。高専での時間を通じて、選んだ道への自分の決意を強化することに集中します。急速な学びのペースを刺激的な冒険として受け入れます。

これからの苫小牧高専で過ごす3年間を楽しみにしています。よろしくお願いします。

こんにちは

創造工学専攻1年
バドラル



今年モンゴルから来ました、専攻科1年の留学生、先端応用化学・生物コースのバトツェンゲル・バドラルです。モンゴルではモンゴルコース技術力レッジで5年間日本語と専門知識を学び、卒業してから来ました。

日本での生活は始まったばかりなので、困り事や悩み事がありましたが優しく親切で心配してくれる人たちがいて、来て以来、たくさん助けてもらいました。皆さんのおかげで心強いです。

北海道苫小牧市に来て初めて海を見たのですが、ゾッと、怖いと思いながらその自然の雄大さに感心しました。これからも日本の自然、冬の北海道を体験するのが楽しみです。

入寮や入学式など色々あって、日本とモンゴルの文化の違い、日本学生の礼儀、その有り様をわかってきました。同級生の皆さんとも友達になっていますが、これからも段々とより仲良くなりたいと思います。

この先、2年の間は多くの物事を分かり、ある問題を解くための知識や能力を身に付けたいです。また、今から始まる特別研究や授業でやり遂げることを楽しみにしております。どうぞよろしくお願い致します。

学生会の紹介

学生会長 5年2組 辻 悟司

学 生会の主な仕事は、対面式や学生総会、高専祭や体育大会などの学生会行事の企画・準備・運営です。その他にも、クラブ活動や委員会の予算のまとめなど、皆様の学生生活がより豊かになるよう活動しています。

今年度から、新型コロナウイルス感染症によって行われていなかった対面式、オンラインで行われていた学生総会を対面で行います。これにより、学生同士の交流がより深まり、ぬくもりのある学校生活を送れるようになります。他の行事もできるようになってきているなか、対面での実施経験がある役員がいまいませんけれども、全員が一致団結し精一杯活動しています。

今年も、学生一人一人が盛り上げられるような体育大会や高専祭になるよう、総務・委員会と力を尽くしますが、皆様の力添えがあってこそこの行事です。ご協力をどうかよろしくお願いします。



教 育 理 念

豊かな人間性および自主自律の精神を育成し、技術者に必要な知・徳・体のバランスのとれた成長を促し、社会の発展のために活躍できる人材を育てる。

本科学士の 学習目標

- Ⅰ 人間性: 正課、行事、課外活動等を通して、豊かな人間性と教養および自主自律の精神を身につける。
- Ⅱ 実践性: 創造力の基礎として、実践力および将来に向けて自らを向上させる学習習慣を身につける。
- Ⅲ 国際性: 世界に目を向ける姿勢と教養およびコミュニケーションの基礎能力を身につける。

創造工学科の目的

創造工学科は、工学分野共通の基礎を教育した上で、豊かで安全な未来を創造するための核となる専門分野とその周辺の知識と技術に関する実践的な教育を行い、豊かな人間性と自主性及び広い視野をもった人材を育成する。

専攻科 学生の 学習目標

- Ⅰ 人間性: 他者と協働し、未来の社会に寄与する、豊かな人間性と教養及び広い視野を身につける。
- Ⅱ 創造性: 工学分野における専門的な知識と経営的知識に加え、複数の視点で物事をとらえて新しい技術を創造する基礎力を身につける。
- Ⅲ 国際性: 地域や国際社会で活躍するための教養とコミュニケーション能力及び相互理解の精神を身につける。

創造工学専攻の目的

専門知識や技術を基礎とし、経営的知識をもって社会変化に柔軟に対応して、新しい分野でも活躍できる実践的・複合的能力を養成する。

研究の目的・社会貢献の目的

学術の進展に教育内容を即応させるため、必要な研究を行う。
また、研究活動や地域への教育活動等を通して、地域・社会の発展に寄与する。

国際交流の目的

広く世界の文化について理解し、国際的視野をもって、世界や地域社会で活躍する実践的人材を育成することを国際交流の目的とする。また、教職員の国際感覚を磨き、グローバルかつ先進的な教育・研究を推進する。

学生課からのお知らせ

本校の学生課は、担当する業務によって5つの部署に分かれています。学生生活に直接関係のある各係の主な業務は次のようになっていますので、問い合わせや連絡は各係の直通電話をご利用ください。

なお、学生課には、保護者等の皆様などから、電話での問い合わせや連絡などが多数寄せられます。こうした電話に対して「担当係（担当者）に代わります。」などと、電話を回すことで、ご不便をおかけすることありますが、担当係（担当者）ごとに専門の業務を分担しておりますことをご理解願います。また、学生の呼び出しや伝言等の取り次ぎについては、緊急を要するもの以外は行っておりませんので、ご承知おきください。

寮務係

【直通電話】0144-67-8002
【学生寮教員当直室】0144-67-8024
（夜間緊急用17:00~8:30）

- 学生の入寮及び退寮に関する事
- 寮費の徴収など諸経費に関する事
- 緊急の場合の外泊の連絡



教務係

【直通電話】0144-67-8001

- 授業、試験に関する事
- 休学、復学、退学及び進級、卒業に関する事
- 在学証明書、成績証明書、卒業証明書などの学生の諸証明に関する事
- 学生証の申請に関する事
- 担任に連絡がつかなかった場合の欠席等の連絡

図書係

【直通電話】0144-67-8905

- 図書の閲覧、貸出しに関する事
- 学術文献の収集及び提供に関する事
- ノートパソコンの貸与に関する事
- その他学術情報センターに関する事



学生係

【直通電話】0144-67-8032

- 奨学金（日本学生支援機構等）に関する事
- 入学料、授業料の免除等に関する事
- 学生の保健管理（カウンセリングの申込等）に関する事
- 学生の課外活動、行事等に関する事
- 学生旅客運賃割引証及び通学証明に関する事
- 就職、進学（大学への編入学試験等）に関する事

キャリア教育センター

【直通電話】0144-67-8946

- 就職に関する事
- 進学（大学への編入学試験等）に関する事
- 企業・大学の説明会等に関する事
- その他進路に関する事



卒業生・修了生へ贈る言葉

本科卒業生ならびに専攻科修了生の皆さん、卒業・修了おめでとうございます。

また、これまで暖かく支えてくださったご家族の皆様方、心よりお慶び申し上げます。

令和六年度、苫小牧高専は創立六十周年を迎えます。本校の卒業生は、これまでに八千五百名を超えており、皆さんもその一員として加わるようになります。また、専攻科は四百五十名を超える修了生がいて、広い分野で活躍されています。

本科卒業生の皆さんは、創造工学やフロンティアコースなど、特色あるカリキュラムでの学びがありました。皆さんが、将来どのような活躍をするのか、教職員はもとより、諸先輩も大変に期待されています。専攻科修了の皆さんは、創造工学専攻において工学の専門分野に加えて経営的知識も学ぶなど、分野を横断する幅広い知識を身に付けており、変革の時代を牽引する技術者として活躍することを確信しています。

在学中は新型コロナウイルス感染症の影響が大きくなりましたが、今年度は皆さんと協力しな

がら体育大会や高専祭などの学校行事を実施することができました。皆で困難な状況乗り越えようと取り組んだ経験は、それぞれの進路において出会うであろう困難な状況を乗り越える力と勇気を与えてくれることでしょう。

令和六年が大きな災害や事故とともに開けたことは記憶に新しいところです。また、世界情勢は混迷を極め、その影響は経済活動だけではなく教育の場にも及んできています。私たちは、世界中の人々が安心して豊かな時を過ごせるように、高い志を持った技術者・研究者として研鑽を続けなければなりません。

本校の教育理念には、「豊かな人間性および自主自律の精神を育成し、技術者に必要な知・徳・体のバランスのとれた成長を促し、社会の発展のために活躍できる人材を育てる。」とあります。これからもこの理念を胸に、自ら進んでさまざまな課題に取り組んでください。将来何か難しい課題にぶつかったときに、恩師である先生たちは必ずや皆さんにとって良きアドバイザーとなる

ことでしょう。高専の門戸は卒業生・修了生にも開かれていますので、気兼ねなく訪ねてください。私たち、教職員一同、社会で活躍している皆さんと再会できることを楽しみにしています。これからの未来社会を築くのは皆さんたちの世代です。皆さんのさらなる成長を願うとともに、皆さんの未来に心から期待しております。

令和六年三月十五日

苫小牧工業高等専門学校長 小林幸徳



卒業生保護者からの言葉

いつまでも応援しています

都市・環境系卒業生／鮫名日和 《母》鮫名聡美

卒業生、並びに保護者等の皆様ご卒業おめでとうございます。

中学生の頃から何度もオープンキャンパスや体験学習などのイベントに参加し、苫小牧高専で学ぶことを目標に努力し続け、5年前あどけなさや誇らしさが入り混じった表情で入学式に参加していたことを懐かしく思い出します。

新型コロナウイルスの影響で臨時休校や遠隔授業が続いた時期がありました。マスクをすることが日常となり学校祭や研修旅行等々新型コロナウイルスの影響を様々な場面で受けてきた学生生活であったと思います。中学を卒業してから今に至るまで、勉強だけではなく様々なことを学び経験し、沢山の事を手に入れる事ができたのだと感じます。学生生活は楽しいばかりではなかったと思いますが、先生方をはじめ周囲の人たちに支えられ、友達と共に沢山の事を学び心身ともにたくましく成長した姿は頼もしい限りです。（髪の色が数か月ごとに変化する姿には驚愕させられましたが）自分自身で選んだ道だからこそ見ることができた景色、得ることができた貴重な経験だという事を忘れないでください。そして自分を様々な形で支えてくれた人たちがいることに感謝し、今までの経験を糧に新しい世界へ羽ばたいていってください。いつでも、いつまでも応援しています。

今まで生徒たちを温かく見守りご指導してくださった先生並びに学校職員の皆様、大変お世話になりました。感謝の気持ちでいっぱいです。

旅立ちに向けて

応用化学・生物系卒業生／佐藤優希 《母》佐藤弥生

卒業生の皆様、ご卒業おめでとうございます。

これから皆様は進学や就職とそれぞれ新たな道を進まれる事と思います。

これからいろいろな人との出会いがあり、今までに無い困難に直面するかもしれません。何か困った事があって自分の答えが出ない時は、焦って答えを出そうとせずに、まずは自分を信じて挑戦してください。困難を乗り越えた時にその経験は自分の財産になります。進学しても社会人になっても学ぶことは続きます。意欲的な姿勢を忘れずに、これからも邁進してください。皆様のご活躍をお祈りしています。

電気電子工学科を卒業した姉の姿を見て、オープンキャンパスに参加し高専への進学を決め、何事にも前向きに取り組み挑戦するあなたの姿を頼もしく見ていました。

卒業おめでとう。5年間勉学に励み、真面目にひたむきに努力する姿は本当に素晴らしかったです。あなたの成長を見守る事が出来てしあわせでした。

GRADUATION PHOTO



VOICES of Graduates 卒業生・修了生からの言葉

高専生活の振り返り

5年1組 林 憲伸



高専での5年間を振り返ると、コロナ禍による様々な制約の中でも充実した時間を過ごせたと実感しています。遠隔授業への移行や学校行事の制限は、様々なことに対してモチベーションを低下させる大きなストレスとなりましたが、その中でも学業や学校行事など全てのことに全力なクラスメイトたちの存在が、この困難な時期を乗り越える支えとなりました。

課外活動では、高専デザコンへの参加を通じて多くの仲間恵まれ、満足のいく成果を得ることができました。まだ知名度は低いですが、この部活が将来さらに発展していくことを期待しています。

高専での5年間知識やスキルの習得だけでなく、多くの経験を積み貴重な機会になりました。特に5年生は、受験や研究、部活動に追われる忙しい日々でした。この一年を乗り切れたことは今後の人生で大きな財産になると思います。

先生方には、部活動や進路に関する相談などで、大変お世話になりました。先生方やクラスメイトには感謝の気持ちでいっぱいです。5年間、本当にありがとうございました。

高専での5年間

5年2組 住岡 空



入学前はここから5年間は少し長いなと感じていましたが、いざ卒業してみればそれほど長く感じませんでした。慣れない寮の生活や大量のテスト、レポートなども今振り返ってみれば高専でしか体験できない貴重で有意義な経験だったのだと思います。

しかし、コロナウイルスの蔓延によって思うように友人と会えなかったり、大切な行事が中止になってしまったりと、いい事ばかりではなかったというのも正直な気持ちです。ですが勉強や研究、部活動等を通して育んだ友情、楽しい思い出は、何年経っても必ず自分の支えになってくれると確信しています。

在校生の皆さんは、これからコロナ禍のようなイレギュラーなことがない学校生活を送ることができると思います。直接会ってコミュニケーションがとれるのは、当たり前のように見えてとても幸せなことですので、たくさん素敵な思い出を作って欲しいです。

最後になりましたが、いつも熱心に指導していただいた先生方、そして私の生活を支えてくれた全ての方に感謝いたします。5年間ありがとうございました！

高専生活を振り返って

5年3組 高橋 爽



高専での5年間はあっという間でした。入学当初は中学生のころとは全く異なる環境である、寮での親元を離れた生活に寂しさや不安を感じることが多かったですが、しかし、同室者やクラスメイトのおかげで高専生活にも徐々に慣れていくことが出来ました。新型コロナウイルスの影響で、学校に通うことが出来ず、自宅で授業を受けたことは高専ならではの経験で、かけがえのない思い出です。苫小牧高専は専門知識だけでなく、技術を学ぶことに加えて、社会に向けて成長することのできる学校です。私は学校や寮での生活を通して、積極性や、コミュニケーション能力を成長することが出来ました。

在校生の皆さんも、レポートや課題、卒業研究などの多くの困難があると思いますが、諦めずに友人と協力し、乗り越えてください。卒業時には苫小牧高専に通ってよかったと思えるはずですよ。

最後になりますが、ご指導いただいた先生方、共に切磋琢磨した友人、そして学校生活を支えてくれた家族に心から感謝申し上げます。

充実の高専生活、最高の思い出

5年4組 長瀬陽太



高専からの合格通知が来て、高専生活への期待を膨らませながら入学式を迎え、よき友との出会い、テストやレポート、コロナウイルスなど豊かな経験ゆえのあっという間の5年間でした。

5年間通い続けるには個人の努力だけではなく、仲間の支えが欠かされなかったと思います。個人として目標達成して嬉しかったもの、仲間と支え合って達成したもの、そして中々実らなかった努力もありました。在校生の皆さんに対して言うことは、「大変でも逃げ出さない。自分の努力を継続しながら、時には仲間に助けを求め、自分も仲間に助ける。」ことです。全力で取り組んだ高専生活は、いい思い出しかないです！卒業式までの間、自分の5年をどう振り返るかは、5年をどう過ごしてきたかだと思います。失敗もいい思い出になるように全力で5年を過ごしてください。

最後に、5年間一緒に歩んできた仲間、ご指導いただいた先生方、高専生活に関わってくださった全ての方に感謝申し上げます。

贈る言葉

5年5組 松橋 愛



この5年間で、私は様々な方に支えられ、沢山の学びを得てきました。厳しくも温かくご指導してくださった先生方や、熱意を応援してくれた家族、共に切磋琢磨した学友、高専で関わった全ての皆様に厚く御礼申し上げます。

高専生活を振り返ると、最終レポートや課題などに追われ続けていた気がします。常に期限に迫られる日常は苦しいものでもあり、年越しの瞬間にPCと対峙していたときの感情は忘れられません。厳しい状況に直面する度に挫けそうになりましたが、先生や先輩に導かれ、友人と苦楽を共にし、何とか駆け抜けることができました。

在校生の皆さんへ贈りたい言葉は、「苦勞して得た成果こそが強みになる」です。楽しいことだけでなく、苦しいこともある高専生活では、頑張る理由を見失うこともあるかもしれません。しかし、時間をかけ苦勞して得た知識や技術、人との繋がりは、人生においてかけがえのない財産になります。皆さんがご学友と苦楽を分かち合い、充実した高専生活を送れることを願っています。

時間の大切さ

創造工学専攻2年 工藤真咲



まず、この度無事専攻科を修了できたこと、とても喜ばしく思います。高専生活を共に過ごした友人、支えてくださった先生方や両親にこの場をお借りして感謝申し上げます。ありがとうございました。

2020年、国内で新型コロナウイルスの感染者が初めて確認されてからというもの、世界的に外出自粛となり、授業形態や生活が一気に変化しました。変化への対応に追われる中、本科4・5年の時間を自粛生活によって奪われ、旅行や課外活動が思うようにできず悔しい思いをしました。専攻科入学後、その時間を取り返すように海外研修へ参加し、アルバイトに勤しみ、合間に試験勉強や就活を真剣に取り組み、忙しく過ごしていたら2年間なんてあっという間に終わっていました。

専攻科での生活を思い返すと、良い経験をしてきたと心から思える程、密で貴重な時間だったと感じます。時間の使い方は人それぞれです。皆さんの学生生活が後悔の残らないものになることを心より願っています。

学 会 賞 ・ 高 専 賞 受 賞 者 一 覧

特別功労賞

5年1組	加 藤 魁 人
5年1組	斎 藤 晶 太
5年1組	菅 谷 泰 世
5年3組	金 子 快 斗
5年3組	林 千 紗 都



学 会 賞

日本機械学会畠山賞

5年1組	杉 野 圭 梧
------	---------

全国高専土木工学会近藤賞

5年2組	池 田 彩 栄
------	---------

日本化学会北海道支部長賞

5年3組	高 谷 賢 乃 介
------	-----------

電気学会北海道支部長賞

5年4組	奈 良 亮 紀
------	---------

情報処理学会北海道支部工業高等専門学校奨励賞

5年5組	岡 田 航 季
------	---------

精密工学会北海道支部学生奨励賞

創造工学専攻2年	内 山 一 輝
----------	---------

退 職 教 員 か ら の ご 挨 拶

将来の夢

総合自然科学系 特任教授 山下 徹

私 は中学校の時、教員になろうと思っていたのですが、忘れ物をして担任に強くぶたれてからは教員になろうという気持ちをなくしました。

北海道大学に入学してからは海外で、石炭、石油、鉄鉱石などを採掘する会社で働きたいと思うようになりました。しかし北大で応援団をやっており、特に1,2年生の頃勉強をあまりしなかったために行きたい学科に行けず（当時北大では1,2年の成績により希望の学科に配属された）その夢もついえました。

ただ大学院修士課程を終了してから留学する機会があり、カナダの大学に留学し一生懸命勉強し、博士課程を修了することができました。博士号を取ったおかげでオーストラリアで18年、日本で18年働くことができました。日本で働いた18年のうち14年間は大学、高専でした。このように最終的には「教員になること」と「海外で働くこと」の両方が満たされ、とても良い人生を送ることができました。神様に感謝致します。これからはオーストラリアと日本を行ったり来たりしたい、私の通っている札幌南福音キリスト教会やブリスベンの教会の仕事を手伝いたい、と思っています。

苫小牧高専に来て7年半お世話になりました。皆様のおかげで本当に楽しく過ごすことができました。有り難うございました。





令和6年3月1日から18日の18日間、学術交流協定校であるニュージーランドEITでの研修が行われました。その参加者8名のうち、有志5名で座談会を行いました。

引率教員：佐沢政樹 准教授／大澤拓門 助教

有 志 4年2組：中谷 篤拓 4年5組：高橋 瞳太 5年1組：嶋 万結子 5年1組：真木 丈士朗 5年2組：大沢 穂香

ニュージーランドEIT研修座談会

1 今回の研修に参加しようと思ったきっかけは？

大沢…高専入学前から海外研修に参加したいと思っていましたが、コロナで海外研修が中止になって、ようやく再開されたため応募しました。

高橋…高専在学中に海外に行ってみたと思っていました。本校主催のEnglish Campにも参加していて、そこで培った英語力がどこまで通用するか確認したかったのもあります。

スラスラ話すのは別の力が必要かなとも思いましたが、日常会話は通用したと思っています。

嶋…小さい頃から留学したい気持ちがありました。私は就職希望だったので3月は就職活動が大事な時期でもあり迷ったのですが、思い切って行くことにしました。実際、研修に参加してニュージーランドは人も優しく、すれ違う方が「Hello」や「Good morning」と声をかけてくれました。また、食べ物もおいしくて楽しかったです。

今回、様々な国の方と友達になったので、次はアジア圏に行ってみたいと思っています。

真木…高専に入学した理由の一つに海外研修がありました。1年生からコロナで海外研修に参加する機会がなかったのですが、3年生の時に函館高専で開催されたKOSN Global Campに参加して、東南アジア諸国の招へい学生と交流することで自分自身の考え方が大きく変わりました。KOSN Global Campで、日本の抱えている課題（エネルギー問題）について、英語でグループディスカッションをして、その結果を英語でプレゼンテーションしました。その経験から、さらに海外に行つて勉強してみたいという意欲が高まったので、今回参加しました。

中谷…最初は、タイカセサート大学高専年派遣を希望していたのですが、そちらが中止になったので、参加しました。海外研修に参加しない選択肢もある中で、なぜ

参加したのかというと、ホームステイプログラムへの興味があります。また、父親がニュージーランドへの渡航経験があり、興味深い文化があると聞いていたのもあります。

2 研修に参加して得たものは？

嶋…2つあります。意外と会話できると思ったことです。英語の授業で学んだことが、実際、通用するの不安だったのですが、ホストファミリーとも会話が出来たので、自信につながりました。特に、抑揚を付けたり、強調して会話してくれたので、おかげで理解しやすかったです。

もう一つは、EITでアジア圏の方と一緒に英語を学ぶ機会があり、視野が広がりました。アジア圏の方の価値観の違いも面白いと感じました。

高橋…一つは、自分からアウトプットが出来たことです。密かに、将棋のプレゼンテーションをしたいと考えていて、実際、最終日にクラスのメンバーに話すことが出来ました。

もう一つは、ホームステイ先での会話です。研修に行くまでは、とても不安が大きかったです。ホームステイ



先が緒だった佐々木くんがとても積極的にホストファミリーと会話していて、それに影響されて自分も積極的に会話できました。それが自分の中で大きな経験になりました。

日本での英語の授業は、インプットが大きな割合を占めていると感じていて、EITでは発表の機会が多いのが違いかと思いました。

大沢…自分から周りに働きかける力がついたことです。授業は、少人数で行う形式だったので、一人ひとりと与えられたテーマについて考えて、英語で議論しました。日本語が使えない中で、お互いの意見を交換しあう、言い合いがあれば、自分で言ひつかない環境によつて積極性が身につきました。帰国してからは、何事にも積極的に挑戦していくという考えに変わりました。

真木…日本人は、インプットが多いイメージがあります。そのことは、ライティングやリーディング能力の高さに繋がっていると思います。アウトプットを主体にしている海外の場合、ライティングが出来なくても会話は出来る人が多かったため、お互いの良さを上手にバランスで取り入れたら、もっと日本人の英語能力が上がるのではないかと思います。

もう一つは、異文化への理解を深めることが出来ました。現地の方の習慣や暮らしに触れたことで、自分が海外で将来働いた際にも今回の経験が活かせるのではないかと思います。

中谷…単にコミュニケーションするための英語であれば、英単語を繋げることである程度会話出来るので、ハードルは低いと感じる方、正しい文法や発音での会話はハードルが高いと感じていて、特にRとLの違いが難しかったのですが、研修に参加する中で上達していきました。

3 これから海外研修への参加を考えている学生にアドバイスするとしたら？

真木…英語が話せないと思っても、研修に参加して、自分で話すきっかけを作ること、自分が今まで持っていないと思っていた能力を発揮することもあるので、ぜひ積極的に参加して欲しいです。

海外の方は、SNS (FacebookやInstagram) を活用しているので、研修前にアカウントを作ったら、研修が終わつても交流できると思います。今でもホストファミリーの方とやり取りしています。

大沢…海外に行ったことがない、海外の方と会話したことがないと不安な場合は、あらかじめ会話する内容を

Q: 今だから言える失敗談は?

中谷: 同じ時期にホームステイしていた学生とホストファミリーの会話を聞いて、相槌の仕方「Yeah」がいいなと思い、それを真似て、よく「Yeah」を使っていたのですが、空港でスーツケースの中に危険なものがある間かれた時に「Yeah」と言ってしまう、空港の人に変な顔をされたことです。その時は後悔しました。

高橋: 往路の飛行機の中で、隣の方を外国人だと思って英語で話しかけたら、実は日本人で、日本人同士で一生懸命英会話をしていました。

真木: その方がとてもいい方で、後から、アイスクリームをご馳走になったよね。

Q: ネーピアでのおすすめスポットは?

大沢: 休日はドルベル保護区 (Dolbel Reserve) という小ぶりの山でのハイキングがおすすめです。登山道が整備されており、自然を楽しみながら20分ほどで山頂へたどり着けます。山頂からはネーピア市全体が見渡せ、天気の良い日は特に絶景だそうです。EITも見つけることができるので探してみてください。



Q: ニュージーランドでおいしかった食べ物は??

壺: 基本的に全部の食べ物が美味しかったです! 特に美味しかったものを下にあげます。

1. パブロバ (左)

ずっと食べてみたかったケーキで、とても甘くて美味しいです。ホストマザーとのお出かけと、EITでのマオリ族との交流で食べました。

2. ラムチョップ (中)

ホストマザーにお願いしたら焼いてくれました。柔らかくてジューシーでした。

3. 鹿肉のソテー (右)

ホストマザーが焼いてくれました。日本の鹿肉よりもあっさりしてて食べやすかったです。この日は白米も食べました。私のホームステイ先では、何度か白米も出しました。



Q: ニュージーランドに持っていったよかったものは?

真木: 持っていったよかったものは無印良品のパスポートケースです。旅行先でパスポートをなくすと戻ってくる可能性が低いことからパスポートはしっかり入れ物に入れて管理しようと思いました。

無印良品のパスポートケースは現金やクレジットカードなども入れることができ、非常に貴重品の収納力に長けています。また、バッグの収納スペースをあまり取らず、ちょうど良い大きさでペンも収納できる優れものだと思います。



《大澤先生からのコメント》

まずは、長期の研修お疲れ様でした。学生の皆さんにとっても貴重な体験となったようで素晴らしいと思います。

私は研修の前半、日本出発から一週間ほどの間一緒でした。最初の方は慣れない海外ということもあり、空港や飛行機で皆さんの緊張が伝わってきましたが、現地でホームステイ先の方々と会った時には少し緊張がほぐれた様子で安心しました。

現地に着いて2日目は現地の観光スポットなどを回りましたが、徐々に英語にも慣れてきて積極的にコミュニケーションを取っていたのが印象に残っています。

EITでの授業が始まってからは、様々な国の学生と同じクラスで英語を学んでいました。こういった交流を通じて相互理解や友情が深まったと感じます。実際にSNSのアカウントを交換してまだに連絡を取っている学生もいるそうです。

最後に、このような海外研修の経験は学生の皆さんにとっても貴重で重要なものだと思います。今回の研修で得られた経験をもとに、残りの学生生活を充実のあるものにしてもらいたいと思います。

《佐沢先生からのコメント》

私は3月8日から3月18日のイースタン工科大学 (EIT) 派遣研修の後半と帰国の引率として参加しました。この派遣研修は8月に予定していましたが、サイクロン (台風) の影響で大きな被害があったため開催が3月に変更されました。EIT構内を散策するといまだに復旧の作業で立ち入れない建物や場所が多くありました。このような状況でも我々がお世話になった英語学習センターは用意が整えられており、すでに他の国 (中国など) から語学学習に来た人が参加していました。

研修中は午前と午後それぞれ3時間ほど英語の授業を受けていました。授業では、文法などを学びながら、英語で自国の文化について説明などをして母語の異なった人との交流を行っていました。母語が異なると英語での発音にもクセが出るため聞き取ることに苦労しているようでした。

これからは海外との交流する機会が増えるでしょう。英語で共通で会話するだけでなく、お互いの背景なども考えるよい体験になったかと思います。

考えておくのがいいです。
ホストファミリーが空港まで迎えにきてくれた際、車の中で話すことをいくつか準備をしたことで、焦らず会話が出来ました。そういった積み重ねで、会話の自信がつき、英語が楽しくなりました。

中谷: 英語にあまり興味がなくても、海外に行ってみてみたいという気持ちがあれば、参加して欲しいです。18日間が長いと思っていたのですが、実際に参加してみるとあっという間でした。ニュージーランドは水道水も飲みましたし、清潔でした。

高橋: 千里の道は歩からです。ニュージーランドもその道の途中なので、失敗を恐れる必要はないです。むしろ失敗してみようくらいの気持ちで参加して欲しいです。

壺: 環境が変わると体調を崩しがちなのですが、意外と体調も崩さず研修を終えることができました。会話が続くか不安もあったのですが、怖がらずに積極的に話してみてください。

4 今回の経験を今後どのように活かしていきたい?
真木: 進学を考えていて、国内外で学会発表出来たらと思っています。今回の経験を踏まえて、英語でコミュニケーションが取りたいです。最初の歩になったと思います。

高橋: 社会人になっても、海外の方と関わる機会はずっとあると思っています。今後、日本国内でも海外の方が増えてきて、英語を話す機会が増えることを考えると、今から英語を話す力を付ける必要があると思います。

また、後輩などにこの経験を伝えていきたいです。大袈裟かもしれませんが、研修に参加することで、世界で生きる力が付くと思います。

帰国後も積極的な気持ちをもって人と接することが出来ています。

今後の人生の中でもニュージーランドに行ったという経験が大きなものになると思います。

中谷: 今回、特にグループワークでの会話の仕方が勉強になりました。

また、英語でのコミュニケーションと比べて、日本人同士の日本語でのコミュニケーションは容易なので、そちらについてもより積極的にになれるかな、と思います。

壺: 普通に進学して、就職する道以外にも、様々な選択肢があることがわかりました。EITの中には私よりも年上で英語を学んでいる方がいて、視野が広がりました。

大沢: ホストファミリーの方がフィリピン出身の方でした。英語が母国語ではない方とも英語でコミュニケーションを取りました。話している相手の背景を知った上で会話が出来ることより深いコミュニケーションが出来



て、相手の懐に入れたので、相手日本人であっても、その人の背景を想像しながらコミュニケーションを取っていきなさいと思います。

高橋: 積極的に学ぶことが大事だと思います。個人個人で様々な学びがあると思います。

今日私は、ALL BACKSの帽子をかぶり、ラグビーボールを握って話をしました。最後になりますがニュージーランドではラグビーも有名です。そういった経験を含めていろいろな世界を見てくださ。 Please teach us about new journey!

令和5年度本科卒業生及び専攻科修了者の進路状況

令和5年度卒業生進路状況						
系	機械系	都市・環境系	応用化学・生物系	電気電子系	情報科学・工学系	合計
求人会社数	564	362	380	572	504	2,382
卒業生数	男	39	32	21	36	153
	女	6	9	16	1	37
進学者数	男	18	8	4	9	51
	女	1	3	4	0	10
企業等	男	21	22	14	25	94
	女	5	6	12	1	27
公務員	男	0	2	1	0	3
	女	0	0	0	0	0
進学先	北海道大学 室蘭工業大学 北見工業大学 弘前大学 茨城大学 長岡技術科学大学 (2) 金沢大学 香川大学 三重大学 苫小牧高専専攻科 (9)	北見工業大学 千葉大学 長岡技術科学大学 (5) 豊橋技術科学大学 苫小牧高専専攻科 (3)	北海道大学 東京工業大学 豊橋技術科学大学 (2) 東海大学 苫小牧高専専攻科 (3)	室蘭工業大学 長岡技術科学大学 (3) 豊橋技術科学大学 (2) 苫小牧高専専攻科 (3)	室蘭工業大学 筑波大学 長岡技術科学大学 豊橋技術科学大学 佐賀大学 北海道情報大学 苫小牧高専専攻科 (8)	
就職先	JALしずない アサヒビール(株) アマゾンジャパン(株) サントリープロダクツ(株) セイコーエプソン(株) パナソニックエンターテインメントコミュニケーション(株) パナソニックATMS(株) (2) ファナック(株) フジテック(株) (2) レイズネクスト(株) (株)JALエンジニアリング (株)NICHIO (株)いすゞ北海道試験場 (株)ダイナックス (株)奈良機械製作所 (株)日立ビルシステム (株)浜松ホトニクス 出光興産(株) 千代田工商(株) 東京ガス(株) 東日本高速道路(株) 日東電工(株) 日本製鋼所(株) 福井村田製作所(株)	NTTインフラネット(株) 伊藤組土建(株) 岩倉建設(株) 関西電力(株) 北ガスシープレックス(株) ジョンソンコントロールズ(株) 東京ガス(株) 東京水道(株) (2) 戸田建設(株) ヒロセ(株) 北電総合設計(株) 前田道路(株) 丸機建設(株) 三井住友建設(株) 明治コンサルタント(株) (株)アリアス設計コンサルタント (株)エーティック (株)大林組 (株)シビテック (株)ジャコス (株)田中組 (株)檜崎製作所 (株)ネクスコ・メンテナンス北海道 (株)フロンティア技研 (株)横河ブリッジ (株)菅原組 北海道道路エンジニアリング(株) 札幌市 むかわ町	(一社) 日本血液製剤機構 DIC(株) 旭化成(株) 大阪シーリング印刷(株) (2) カルビー(株) 北海道工場 キリンビール(株)北海道千歳工場 サントリーグループ サントリープロダクツ(株) 第一三共ケミカルファーマ(株) ダイキン工業(株) 大日精化工業(株) 苫小牧ガス(株) 日産自動車(株) ニプロ(株) ミネベアミツミ(株) メビウスパッケージング(株) 雪印メグミルク(株) (株)ADEKA (株)奈良機械製作所 (株)希松 (2) (株)レゾナック 五井事業所 (株)北海道LIXIL製作所 中外製薬工業(株) 北海道住電精密(株) 北海道庁	NTT東日本グループ会社 アイコム(株) エア・ウォーター北海道・産業ガス(株) 王子マテリア(株) キャノンマーケティングジャパン(株) サントリープロダクツ(株) 電源開発(株) 東芝三菱電機産業システム(株) 成田空港給油施設(株) 日本甜菜製糖(株) 浜松ホトニクス(株) 福井村田製作所(株) 北海道電気工事(株) 北海道電力(株) (2) 北海道古川電気(株) 三菱電機ビルソリューションズ(株) 三菱電機プラントエンジニアリング(株) ミネベアミツミ(株) 雪印メグミルク(株) レンゴー(株) (株)インフィニットループ (株)オーバル (株)多摩川電子 (株)つうけん (株)ベネテックス	NTT東日本北海道 京セラコミュニケーションシステム(株) 竹田設計工業(株) 日信ソフトエンジニアリング(株) フラール(株) (株)HARP (2) (株)アクセスネット (株)アテック (株)スクデット・ソフトウェア (株)テクノプロ (株)テクノラボ (株)朋栄 (株)北海道ジェイ・アールシステム開発 (株)メンバーズ	

令和5年度卒業生進路状況		
系	創造工学専攻	
求人会社数	528	
卒業生数	男	16
	女	5
進学者数	男	4
	女	2
企業等	男	12
	女	3
公務員	男	0
	女	0
進学先	北海道大学大学院 (6)	
就職先	ENEOS(株) アイリスオーヤマ(株) アクセンチュア(株) ニチレキ(株) 長谷川体育施設(株) 浜理PFST(株) (株)NICHIO (株)カネカ (株)シーズ・ラボ (株)タナカコンサルタント (株)日立ハイテクフィールドディング (株)日立パワーソリューションズ 日本軽金属(株) 北都システム(株) 矢崎総業(株)	

令和5年度本科卒業生及び専攻科修了生の進路状況について

キャリア教育センター長 八田茂実

コロナウイルスの影響から2021年以降、求人数は減少傾向にありましたが、本年度はコロナウイルスからの回復により、本科生対象の求人会社数は増加に転じました（最近5年間では2023年度は2,382社、2022年度は2,348社、2021年度は2,689社、2020年度は3,160社、2019年度は2,926社）。また専攻科生の求人会社数もわずかながら増加しています（2023年度は528社、2022年度は522社、2021年度は1,084社、2020年度は1,303社、2019年度は1,083社）。また、本科生190名の卒業生の進路は、44名が道内就職、80名が道外就職、61名が進学する結果となりました。今後は少子高齢化による労働人口の減少や、半導体産業の進出に伴う産業構造の変化の影響が強く出てくると思われます。

慢性的な人手不足の中、企業は人材確保のための待遇改善や業務効率化に取り組んでいます。一方では事業再編のために希望退職を募る報道なども見られます。このような中で、社会の変化に対応できる力を身につけさせる教育が重要です。いくつになっても常に自分自身のキャリア・デザインができるような素地をこの高専の在学中に作ることが不可欠と考えております。このようなことを踏まえ、本校では、キャリア講話や創造工学、ホームルームを通して、コミュニケーション力、多様な価値観への理解、将来の先見性、自分自身の理解など、社会で必要な力を持ってもらえるように、「組織的」「系統的」なキャリア教育の一層の推進に取り組んでまいります。2024年度も引き続き苫小牧高専同窓会である「樽前会」、苫小牧高専を支援して下さる地元を中心とした企業の集まりである「協力会」と連携しながらキャリア教育に力を入れていきます。今後起こり得る社会の変化に対しても、苫小牧高専の卒業生が引き続き社会で活躍できるよう、我々もより一層の努力をする所存です。

TOPICS

フロンティアコース4年生がビジネスプランコンテストで「奨励賞」を受賞しました

2月24日(土)に開催された第4回学生ビジネスプランコンテストにおいて、フロンティアコース4年2チームが発表し、大沢穂香さん(都市・環境系)、高橋佑輔さん(機械系)、高橋涼平さん(応用化学・生物系)のチームが「奨励賞」を受賞しました。

本チームは、「吃音の人に発表の場を」というテーマで、吃音で悩んでいる人がそれを克服するための製品を考えてそのビジネスプランについて発表したものです。今後、クラウドファンディングで資金を調達し、次年度のフロンティア研究で実際に製品開発に取り組むことを予定しています。



学生が「札幌AI道場 成果発表会」で発表しました

2月26日(月)札幌市で開催されたSapporo AI Connect 2024中の「札幌AI道場 成果発表会」において、2年 治田屈冬さん(発表者)・西山拓実さん・菊池佑さん・八木俊輔さん・関口功晟さんが成果発表を行いました。

苫小牧高専では、第2学年の授業「AI・データサイエンス」において、AIビジネスのアイデアを創出する「AI活用アイデア創出ワークショップ」を株式会社調和技研のご協力のもと実施しました。ワークショップでは、北海道コンサドーレ札幌から提供された課題テーマに対し、約200名の学生がアイデアを考え、その中の優れたアイデアを今回の札幌AI道場で発表することになりました。発表した学生達は、Team Moromenという学生クリエーターグループとして活動しており、他のイベントなどでも活躍しています。今後の活躍が大変楽しみな学生たちです。



KOSEN Global Camp2024に参加しました

3月1日(金)~7日(木)の7日間、函館高専で「KOSEN Global Camp 2024」が開催され、本校から1年 五十嵐夏樹さんが参加しました。キャンプには東北・北海道地区の各高専の学生およびモンゴル・タイ・シンガポールの学生総勢39名が集い、「明日にかけける橋(災害時に必要な橋)」をテーマに、多国籍チームを組んで模型作りやプレゼンテーションなど様々な課題に取り組みました。

《五十嵐さんのコメント》

橋の構造やプレゼン技術などの研修で学んだことと同じくらい、グループ活動やホテルでの他校の方々との交流が勉強になりました。特に、6泊7日という期間で同じ部屋だったモンゴル科技大高専の学生とはたくさん交流することができました。日本との文化や生活の違いについて多くの事を学びあえたと感じています。分からない表現があったらすぐに質問する、相手にわかりやすいよう簡潔に短く伝えるなどの言語コミュニケーションの力も伸ばすことができました。英語学習への関心が高い他高専の学生との交流も、これからの勉強への刺激になりました。今後もこのような活動があれば積極的に参加していきたいと考えています。



人事異動

○令和6年2月29日付

非常勤教職員

【雇用期間の満了】

技術補佐員(村本教授研究室) 尾田 龍 司

○令和6年3月31日付

教育職員

【辞職】

創造工学科准教授(機械系担当) 土 谷 圭 央

創造工学科准教授(情報科学・工学系担当) 大 橋 智 志

【雇用期間の満了】

創造工学科特任教授(総合自然科学系担当) 山 下 徹

事務職員・技術職員

【雇用期間の満了】

技術教育支援センター嘱託職員 照 井 文 哉

学生課図書係事務補佐員 戸 島 華 蓮

学生課図書係事務補佐員 新 田 靖 周

有期雇用職員

【雇用期間の満了】

総務課総務係事務補佐員 児 玉 美 佳

○令和6年4月1日付

教育職員

【採用】

創造工学科准教授(応用化学・生物系担当) 渡 邊 智

創造工学科准教授(総合自然科学系担当) 金 子 友 海

創造工学科准教授(総合自然科学系担当) 柏 瀬 陽 彦

創造工学科特命准教授(応用化学・生物系担当)

アルデアガ アルデアガ フェルナンド

【昇任】

創造工学科准教授(情報科学・工学系担当) 杉 本 大 志

創造工学科准教授(情報科学・工学系担当) 山 本 椋 太

創造工学科准教授(総合人文科学系担当) 時 田 紗 緒 里

【配置換】

機構本部事務局付(タイ高専)准教授 赤 塚 元 軌

【再雇用更新】

創造工学科特任教授(機械系担当) 當 摩 栄 路

創造工学科特任教授(応用化学・生物系担当) 古 崎 毅

創造工学科特任教授(情報科学・工学系担当) 阿 部 司

事務職員・技術職員

【採用】

総務課総務係事務補佐員(有期雇用) 高 野 みのり

(総務課総務係事務補佐員)

学生課学生係非常勤看護師 相 原 雅 子

学生課学生係非常勤看護師 安 元 理 恵

学生課図書係事務補佐員 大 沢 岬 紀

学生課図書係事務補佐員 山 本 惣 太

特命教授(菊田教授研究室) 岡 田 昌 樹

事務補佐員(甲野教授研究室) 長 谷 川 人 美

【昇任】

学生課図書係係長 酒 井 洋 美

(学生課図書係主任)

技術教育支援センター技術専門員 川 畑 哲 治

(技術教育支援センター技術専門職員)

技術教育支援センター技術専門職員 土 門 寛 幸

(技術教育支援センター技術職員)

【再雇用更新】

技術教育支援センター嘱託職員 蘇 武 栄 治

【併任解除】

学生課図書係係長 岡 本 明 彦

(学生課課長補佐)

○令和6年5月1日付

非常勤教職員

【採用】

学生寮指導員(学生課寮務係) 栗 山 昌 樹

学生寮指導員(学生課寮務係) 中 津 正 志

学生寮指導員(学生課寮務係) 野 口 勉

技術補佐員(甲野教授研究室) 井 簡 步 夢

技術補佐員(甲野教授研究室) 竹 田 聖

技術補佐員(甲野教授研究室) 横 川 愛 莉

○令和6年5月27日付

事務職員・技術職員

【配置換】

函館工業高等専門学校 木 村 玲 太

高専通信

vol.165 CONTENTS

1	新入生へ贈る言葉	6	教育理念・学習目標等 学生課よりお知らせ	11	ニュージーランドEIT研修座談会
2	在校生からのメッセージ 第1学年担任からのメッセージ	7	卒業生・修了生へ贈る言葉	12	
3	各副校長ご挨拶	8	卒業生保護者からの言葉 卒業式写真	13	令和5年度進路状況
4	新任教員挨拶	9	卒業生・修了生からの言葉	14	TOPICS 人事異動
5	新留学生紹介 学生会の紹介	10	学会賞・高専賞受賞者一覧 退職教員からのご挨拶		

編集後記

今回の高専通信第165号では、令和5度末から令和6年度当初の各種活動についてお知らせしており、卒業式と入学式の様子が並んでおります。新入生および保護者の皆様には、歓迎の言葉と共にぜひ卒業生・修了生の言葉に触れ、これからの5年間へ思いを馳せていただければ幸いです。

また、昨年度3月には、令和元年度以来約5年ぶりにニュージーランド・EIT派遣研修が再開され、今号には派遣学生たちの座談会が掲載されています。秋以降は、5年生以上を対象に、タイや香港へのインターンシップの募集も行う予定です。今後の活動報告にもどうぞご期待ください。

総務主事補 石川愛弓

〔高専通信に関するお問い合わせ先〕

苫小牧工業高等専門学校 総務課総務係 〒059-1275 苫小牧市字錦岡443

TEL.0144-67-0213 [MAIL] pub_info@tomakomai-ct.ac.jp

